

社会資本総合整備計画(第2回変更)

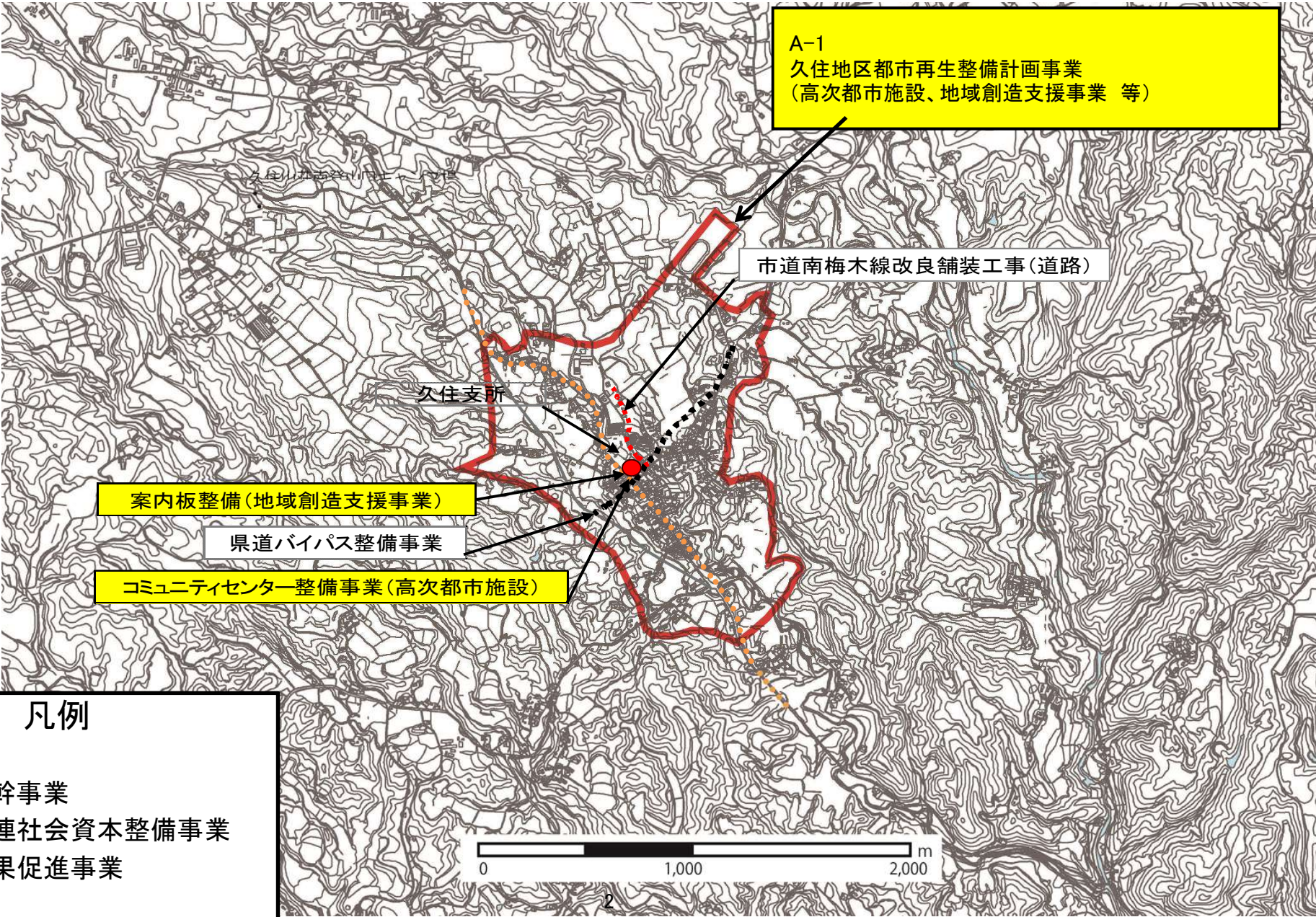
くじゅうちくとしさいせいせいびけいかく
久住地区都市再生整備計画

おおいたけんたけたし
大分県竹田市

れいわ
令和2年 6月

計画の名称	久住地区都市再生整備計画																		
計画の期間	平成28年度～令和2年度（5年間）					交付対象		大分県 竹田市											
計画の目標																			
大目標：自然とともにゆったり生きる“スローライフなまちづくり” 目標1：産業振興と地域活動の活性化による「永続的に維持可能な生活拠点の形成」 目標2：自然と産業を維持するためのコミュニティ強化による「住みやすい安全・安心な町の形成」																			
計画の成果目標（定量的指標）																			
・地区内社会人口の増加 ・地区内のまちづくり活動の増加 ・地区内来街者数																			
定量的指標の定義及び算定式																			
		定量的指標の現況値及び目標値										備考							
		当初現況値 (H26当初)		中間目標値 (H29末)		最終目標値 (R2末)													
住民基本台帳の久住地域の社会人口を把握し、「転入人口」-「転出人口」を把握する。		-20人		-		0人													
久住地区内で開催されるまちづくり活動等の会合開催数の変化を把握する。		3		-		15													
観光客などの地区内来街者数の変化を把握するため、地区内観光施設の利用者数の総数を把握する。		1,100,000人		1,150,000人		1,200,000人													
全体事業費		合計 (A+B+C)		106.8百万円		A		106.8百万円		B		C		0百万円		効果促進事業費の割合 (A(提案分)+C) / (A+B+C)		2.7%	
交付対象事業																			
A1 基幹事業（市街地整備）																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考				
A1-1	都市再生	一般	竹田市	直/間	竹田市	久住地区都市再生整備事業	高質空間形成施設 他 167ha	竹田市	H28	H29	H30	H31	R2	106.8					
合計														106.8					
B 関連社会資本整備事業																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考				
									H28	H29	H30	H31	R2						
合計														0.0					
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考				
C 効果促進事業																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考				
									H28	H29	H30	H31	R2						
合計														0.0					
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考				

計画の名称	久住地区都市再生整備計画		
計画の期間	平成28年度 ～ 令和2年度 (5年間)	交付対象	大分県 竹田市



都市再生整備計画(第2回変更)

久住地区

大分県 竹田市

令和2年6月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業	☒
まちなかウォークアブル推進事業	☐

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	大分県	市町村名	たけたし 竹田市	地区名	くじゅう ちく 久住地区	面積	167 ha
計画期間	平成28年度～令和2年度	交付期間	平成28年度～令和2年度				

目標

大目標: 自然とともにゆったり生きる“スローライフなまちづくり”

目標1: 産業振興と地域活動の活性化による「永続的に維持可能な生活拠点の形成」

目標2: 自然と産業を維持するためのコミュニティ強化による「住みやすい安全・安心な町の形成」

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

【まちづくりの経緯】

昭和39年九州横断道路(やまなみハイウェイ)開通

昭和40年国民宿舎「久住高原荘」落成

昭和41年第21回国民体育大会(山岳部門)久住町で開催

昭和44年久住家畜市場落成

昭和46年「第1回久住高原祭」開催

昭和59年久住高原松並木「歴史の道」着工

昭和61年日本一マラソンコース練習コース開き

昭和63年日本ボーイスカウト九州ジャンボリー開催

平成5年久住町新総合振興計画策定

平成6年「久住高原ロードパーク」オープン

平成11年坊ヶつるに鳴子橋完成

平成17年竹田市、直入郡直入町・荻町と合併

平成25年阿蘇くじゅう観光圏整備実施計画認定

平成26年竹田市歴史的風致維持向上計画認定

【現況】

・久住地区がある久住地域は、本市の北西部に位置し、北側が由布市及び玖珠郡九重町西側が熊本県阿蘇郡産山村及び南小国町に隣接する面積 142.7km2 の地域である。

・九州アルプスの呼び名を持つくじゅう連山の一角である久住高原に属し、四季折々の自然風景を楽しめる場所である。

・以前は畜産や農業を主体とする産業形態であったが、近年は、高原地帯の恵まれた自然環境を生かした環境調和型のリゾート開発など、観光資源としての利用も進められている。

・久住地域の西側の渓谷と尾根が多い地域では人口が減少しているが、南東部の傾斜がなだらかな地区では人口は増加しており、産業転換に伴った移住需要が見られる。

課題

・地域からの流出者の増加に加え、国道442号バイパス開通によって旧道の交通が減少し、旧道沿線に形成された商店街の利用客が減少しており、商店街が衰退しつつある。

・地域全体として、地域振興やサークル活動あるいは行催事などについての集まりや意見交換を行える機会が少なく、今後、多くの住民が参画しての地域づくりを進めていくためには、気軽に集まれる機会が求められている。

・少子高齢化と流出者の増加により、地域の基幹産業の一つである畜産業に欠かせない牧草地の野焼きや、集落周辺の生活道路の草払いなど、地域の共同作業が困難になっており、産業を引き継ぐ担い手づくりが必要である。

・竹田市を訪れる観光客に対する観光案内施設や情報発信が不十分でありその対応が課題となっている。

・地域住民が地域文化遺産の歴史的価値を認識することが必要であるが歴史的文化遺産を活用したまちづくりの基本方向を共有する機会が不足している。

将来ビジョン(中長期)

「竹田市総合計画(たけた活力創造計画2006)」(平成18年8月)

・『自然・歴史・文化を育む名水名湯田園観光都市』

(まちづくり戦略)

・安全・安心な「さわやかスローライフ」を創造する生活環境づくり／自然や地域文化を活かした「経済システム」を創造する竹田ブランドづくり／地方の時代にふさわしい「パートナーシップ」を創造する公民連携づくり

「竹田市都市計画マスタープラン」(平成25年3月)

(将来像)「活力に満ち、誰もが誇れる、我がまち竹田」

(久住地域)

・久住商店街活性化に向けた協議の場の設立／商店街による自主努力への支援／新たな商店街支援策の検討／久住支所の多面的機能の導入

「竹田市住宅マスタープラン」(平成24年3月)

(重点施策)

・農村回帰・定住促進プロジェクト／安全・安心な住まい改修プロジェクト／公営住宅等ストックの計画的活用プロジェクト

「竹田市新生ビジョン」(平成23年6月)

・「地域力」・・・“竹田らしさ”への気づき、「人間力」・・・グローバルな人材育成、「行政力」・・・世界に通用する価値の提供、「経営力」・・・政策立案能力の強化

「阿蘇くじゅう観光圏整備計画」(平成25年3月)

・住む人が心から誇りをもてる「住んでよし・訪れてよしのブランド観光地域づくり」で滞在交流型観光地を目指す。

「竹田市歴史的風致維持向上計画」(平成26年4月)

・基本方針・・・自然と共生するすみやすい里づくり／未来を担う心豊かな人づくり／自然の恵みを活かし結び合うまちづくり

・主要施策・・・魅力ある市街地の形成／町並み景観整備の推進／文化遺産の保護と継承／郷土の歴史や資料館、文化施設のネットワーク化／農村環境の整備・保全／研究機関・観光産業との連携／中心市街地及び各商店街の活性化／広域的な周遊型観光ネットワークの確立／イベントの充実や観光資源の付加価値化の促進／効果的な観光情報の発信／地域資源の有効活用

目標を定量化する指標

	指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
	地区内来街者数	人/年	観光客などの地区内来街者数の変化を把握するため、地区内観光施設の利用者数の総数を把握する。	観光客などの地区内来街者数の変化によって、商店街や地域産業の活性化への事業効果を確認する。	1,100,000	H27	1,200,000	R2
	地区内のまちづくり活動の増加	回/年	久住地区内で開催されるまちづくり活動等の会合開催数の変化を把握する。	久住地域の定住促進や産業の担い手育成のため、地域コミュニティの活性化状況の変化によって目標の達成状況を確認する。	3	H27	15	R2

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
○整備方針1:産業振興と地域活動の活性化による「永続的に維持可能な生活拠点の形成」を実現するため、以下のまちづくりを進めます。 ・地域商店街へのアクセス性の確保 ・地域商店街を維持するための観光集客及び観光ニーズへの対応 ・スローライフを維持するための環境保全と地域活動の継続 阿蘇くじゅう観光圏整備計画において観光圏整備のイメージは、『住む人が心から誇りを持てる「住んでよし、訪れてよし」の地域づくりで滞在交流型観光地を目指す』(計画書抜粋P19)として、当区域では久住高原の旅事業(計画書抜粋P27)等と連携を取りながら、観光客の滞在・滞留の場として、さらに地域住民との交流の場として情報発信や地域活性化を図ることとしています。 また、竹田市歴史的風致維持向上計画においては、基本方針として『未来を担う心豊かな人づくり』や『自然の恵みを生かし結び合うまちづくり』として『観光の振興』(同P92)を掲げております。 地域交流センターの整備により観光客に対して情報発信を行うとともに、地域住民が世代間を超え歴史価値の認識を深める場となる地域活性化の拠点整備を行う。	■情報案内板整備事業(基幹事業・地域生活基盤施設) ■地域交流センター整備事業(基幹事業・高次都市施設) ○県道バイパス整備事業(関連事業) ○市道南梅木線改良事業(関連事業)
○整備方針2:自然と産業を維持するためのコミュニティ強化による「住みやすい安全・安心な町の形成」を実現するため、以下のまちづくりを進めます。 ・地域住民のコミュニティ活動や交流できる場の形成 ・通学路を中心に誰もが安全に安心して歩行できる歩行者空間の確保 ・産業を維持するための担い手の確保 ・地域ぐるみでの産業活動を維持するためのコミュニティ活動の活性化 阿蘇くじゅう観光圏として自然景観は地域の観光振興戦略において欠かせない要素となっている。自然景観保全のため、観光業のみでなく、農林・畜産業などの他産業とも連携を深めコミュニティ活動の活性化を図る。 また、竹田市歴史的風致維持向上計画において、『自然の恵みを活かし結び合うまちづくり』も基本方針のひとつとしており、農林・畜産業・商業・観光の振興を図り、魅力あるまちづくりを目指しています。まちづくりの目標の1つとして『安心・安全に暮らせる強いコミュニティと地域を牽引する人材の育成』を掲げています。	■情報案内板整備事業(基幹事業・地域生活基盤施設)再掲 ■地域交流センター整備事業(基幹事業・高次都市施設)再掲 ○県道バイパス整備事業(関連事業)再掲 ○市道南梅木線改良事業(関連事業)再掲
その他 ○住民等によるまちづくり活動等について ・久住山開きや野焼きなど、自然環境を維持・管理するための取組 ・商店街を維持するためのイベントの開催	

合計(A+B)	106.8
---------	-------

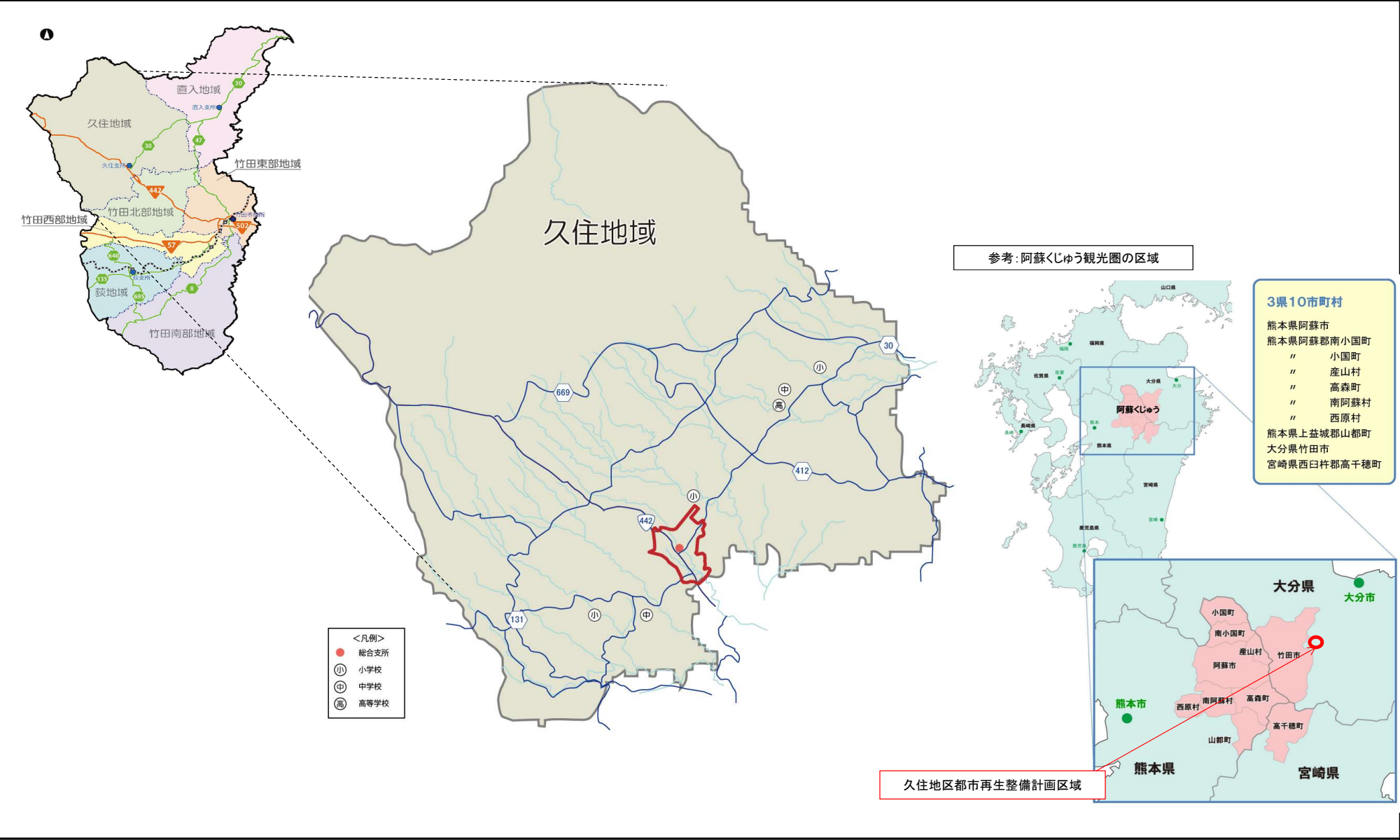
基幹事業

提案事業(継続地区の場合のみ記載)

合計(A+B)	106.8
---------	-------

[illegible]

クジユウ テク オオイタ ケン タケタ シ	面積	167 ha	区域	久住町大字久住の一部
久住地区(大分県竹田市)				



久住地区(大分県竹田市) 整備方針概要図

目 標	大目標: 自然とともにゆったり生きる“スローライフなまちづくり” 目標1: 産業振興と地域活動の活性化による「永続的に維持可能な生活拠点の形成」 目標2: 自然と産業を維持するためのコミュニティ強化による「住みやすい安全・安心な町の形成」	代表的な指標	地区内来街者数 (人/年)	1,100,000 (H26年度)	→	1,200,000 (R2年度)
			地区内のまちづくり活動の増加 (回/年)	0 (H26年度)	→	15 (R2年度)



都市再生整備計画事業事前評価シート

計画の名称： 久住地区都市再生整備計画 事業主体名： 竹田市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	○
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○